

F-26

161
369

櫻井傳三著

(非賣品)

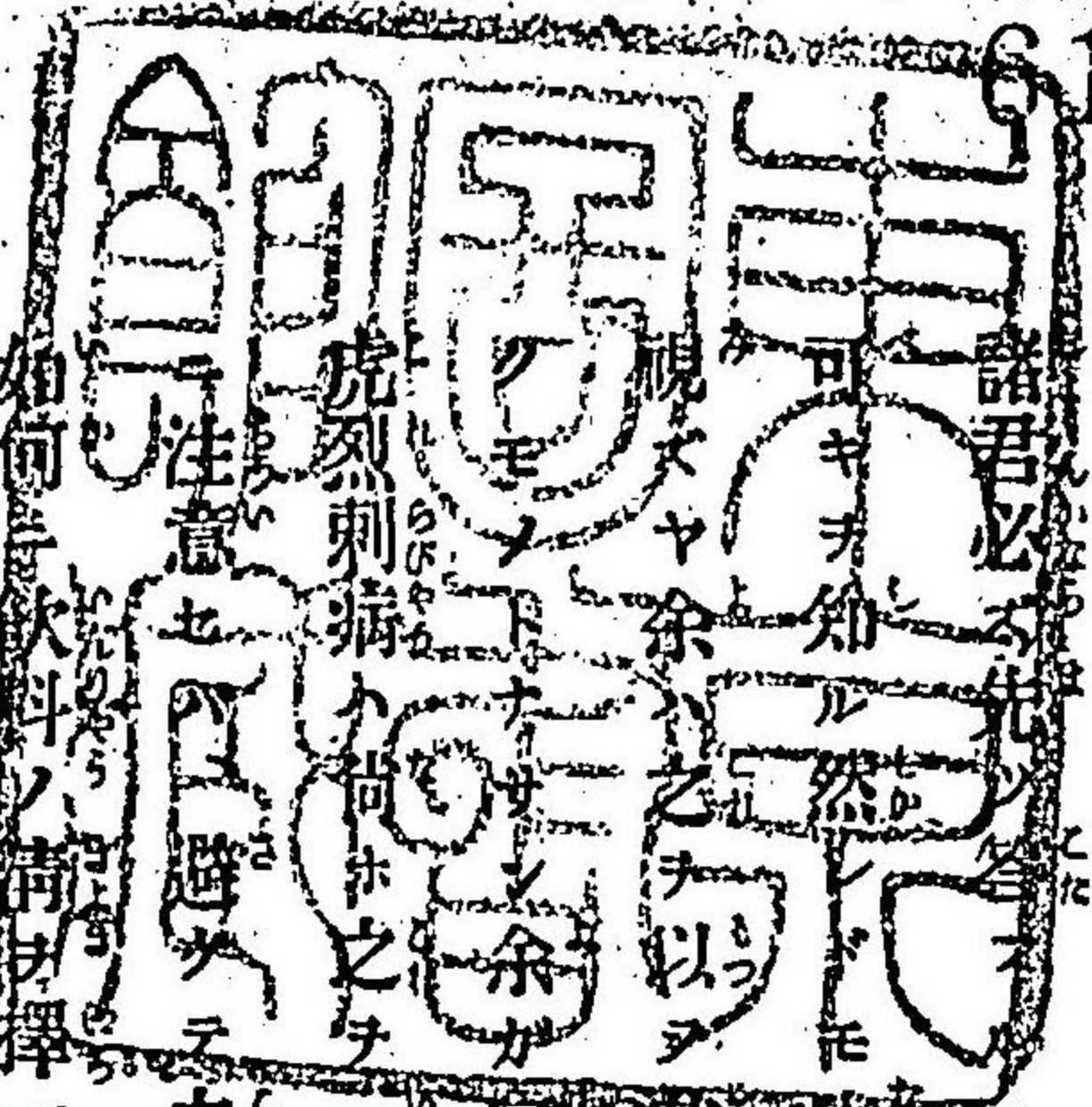
天然痘豫防注意

兼種痘者之注意

特49
616

天然痘豫防注意

櫻井傳三



請フ試ニ之ヲ諸衆ニ問ハシ、諸君今日病毒ノ恐ルベキ何ヲ以テ最モ甚シトナスカ、
 諸君必ズ先ノ答ニ、虎烈刺病ニ如カザルヲ以テセシ然リ余亦最モ虎烈刺病ノ恐ル
 可キヲ知ル然レモ、向ホ他ニ更ニ之ヨリ恐ル可キ者ハ有ラザルカ諸君彼ノ天然痘ヲ
 視テヤ余ノ言ニ以テ、其最位ニ置カントスルナリ斯ク言ハバ諸君或ハ余ヲ以テ人ヲ欺
 クモノトナサシ余ガ言果シテ諸君ヲ欺ケルカ諸君且心ヲ静メテ暫ラク之ヲ思ヘ夫レ
 虎烈刺病ハ昔ホ之ヲ一部ノ流行病トモ見做ス可キモノニシテ、若シ充分能ク衣食住
 注意セバ、醫メテ之ヲ免レ能ハザルニ非ラズ、唯ダ如何ニ空氣新鮮ノ地ニ在ルモ
 如何ニ飲料ノ清ヲ擇フモ綺羅錦繡ヲ纏フモ滋養ノ美味ヲ食フモ千策萬方逃避スル能
 ザルハ獨リ天然痘ヲ然リトナスノミ、古來計算家ガ爲シタル統計ニ依ルニ、種痘發
 明ノ以前ニ在リテハ、患者三人ノ中必ズ一人ヲ損シ、他ノ二人ノ中尙ホ其一人ハ必

癩人不具者タルヲ免レザルノ割合ナリシト、是レ必ズシモ無稽ノ妄説ニ非ザルガ
如シ、現ニ昨明治二十五年ノ流行ニ際シ我カ前橋市中ニ於ケル初發(全年一月四日)
以來全年二月廿八日迄瘡瘡ノ表ヲ示サンニ

患者三十人 眞痘 二十人
變痘 十八人

中全治十人死亡十人現患者十人即チ其三十人ニ對スルノ十人(死亡)ハ正ニ其三分ノ
一ナルヲ看レバ益々前説ノ確キヲ致セリ今此比例ヲ推シテ假リニ世界ノ人口ヲ十億
ト見做サンカ若シ世ニ種痘ノ發明ナク天然痘ヲシテ流行ヲ縱ニセシメタランニハ
十億ノ人口忽チニシテ其三分ノ一(即チ三億)ヲ滅却スベク、尙ホ殘餘七億ヲ二分セ
ル三億五千萬ハ或ハ癩人トナリ或ハ不具者トナリ眼ヲ失フアリ鼻ヲ損スルアリ痘痕
滿面ニ印スルアリ光散シ澤消シ容ヲ變シ色ヲ黒フシ縱令其ノ以前ハ清絶三秋ノ月ノ
如ク麗艶又タ二月ノ花ヨリモ美ナル絶世ノ佳人ナリシ者ト雖モ玉顏忽チ碎ケテ一

朝見ル影モナキ醜婦ト化シ去ルアラバ爲メニ仇儼ノ適遇ヲ求ムル能ハズ一生ヲ不快
ノ境涯ニ終ル者蓋シ枚擧スルニ遑アラザル可シ、嗚呼是レ此ノ害毒ヲ流布スル天然
痘ハ虎烈刺病ノ害毒ニ比シテ尙ホ一層甚シキモノアルナリ豈ニ是レ忍ル可キノ最
大一ニアラズヤ然ルニ今日世人ノ天然痘ヲ恐怖スルコト虎烈刺病ノ甚シキガ如クナ
ラザルハ何ツヤ是レ俱ニ其病毒ノ猛烈ナルニモ係ハラズ一ハ其ノ傳來ノ近世ニ係ル
ト、一ハ其ノ傳來已ニ久シク、狎レテ恐レザル習慣ノ勢力アルニ之レ由ルノミ
抑モ天然痘ノ我が國ニ侵來セルハ、遠ク天平九年ノ昔ニアリ、其始ノ筑紫ニ流行セ
ルヤ、世人ノ驚愕實ニ名狀スベカラザルモノアリシナリ、書籍ノ載スル所、口碑ノ
傳フル所ロニ依リテ、之レヲ案ズルニ、當時粗野隲昧ノ俗疾病誤過罪辟等尙モ身
心ノ調和ヲ失ヒ、氣魄ノ迷亂其常ニ非ザルモノハ皆之ヲ以テ惡魔ノ所爲ニ歸シタル
時代ナリシカバ、其ノ迷想ヲ懷シ殊ニ甚シク、浮説枯ヒ喧傳シテ自カラ百鬼ヲ出シ
士人婦女子相ヒ抱ヒテ四巷ノ哭泣ニ聲ヲ絶タズ、不幸ニシテ若シ天然痘ニ感染スル

モノアレハ恰モ其身大惡魔ノ憑ル所トナリ、大不潔ヲ蒙ルノ思ヒヲ爲シ、患者モ亦
 タ懺悔シテ宿業ノ果ヲ免レント欲シ、自ラ門頭ニ赤色ノ注連ヲ張り、其頭上ニ赤色
 ノ片布ヲ捲キ、以テ他人ヲシテ近ツカザラシムルノ標示ヲナセリ、近時ニ至ル迄古
 老ノ痘兒ニ被ラシムルニ赤色ノ頭巾ヲ以テセルハ全ク此習慣ヲ遺セルモノナリト云
 フ、又以テ古人ノ天然痘ヲ恐怖シテ其骨髓ニ徹スルノ一斑ヲ見ルベシ、夫レ斯ノ如
 ク古人ハ天然痘ヲ恐怖セリト雖モ、未ダ之ヲ豫防スルノ方策ヲ立ツルニ至ラズ當時
 ノ慘害ニ慮フニ餘リアリト云フベシ、
 已ニシテ其後(何レノ時代ニテアリシカ)漸ク一法ヲ案出セルモノアリ、其ハ該患者
 ノ中ニ就テ最モ其輕症ナルヲ擇ビ、其ノ膿汁ヲ採リテ、未痘者ニ移植スルニアリシ
 モ、患者ハ痛ク其ノ膿汁ヲ取ラル、コトヲ嫌ヒシヲ以テ、此法固ヨリ豫防普及ノ方
 策ヲザリシト雖モ、爾來此ノ法ニ依リ僅カニ其病毒ノ重キヲ免ル、者ハ、無上ノ
 幸福ヲ得タルモノトナシ、然ラザルハ皆天ニ任セテ其ノ運命ヲ期シ、心細クモ幾多

ノ歲月ヲ經過セリ、

然ルニ西曆千八百卅二年(或ハ云フ千七百九十六年ト今姑ク扶氏ノ說ニ從フ)我が天
 保八年ノ頃ニ至リ、英國ノ醫士シモンナル氏、始メテ牛痘ヲ採テ人類ニ接種スルノ
 明案ヲ發明經驗セリ、爾來氏ノ術頻リニ傳播シ、十三年ヲ經テ嘉永二年ノ頃ニハ、
 已ニ其術ヲ我邦ニ傳フルニ至レリ、今其ノ傳播ノ事情ヲ記サズト雖モ、既ニ其ノ術
 ノ益々傳播シテ今日一般各所ニ牛痘接種ノ行ナハル、ハ、又タ已ニ諸君ノ熟知スル
 所ナリトス、然レドモ諸君尙ホ其ノ一ヲ知テ未ダ其ノ二ヲ知ラザルモノニ非カ諸君
 ノ多クハ恰カモ一度ビ種痘ヲ行ハバ數年數十年決シテ復タ其ノ病毒ニ感染セザル物
 ナルガ如ク思惟セリト雖モ個ハ是レ誤解ノ甚ダシキノミ縱ヒ一度天然痘ニ罹レルモ
 ノト雖モ尙稀ニハ二回以上感染スルヲアリ現ニ今回ノ如キ痘痕ノ老翁ニシテ患者ノ
 數ニ算セラル、者アリトイヘリ況ヤ種痘ニ於テチヤ決テ又タ一再ニシテ止ム可キニ
 アラズ今諸君ノ思惟スル如キハ是恰モ風前ニ燈火ヲ置クガ如シ、危矣哉又危矣哉、乞

六
フ試ミニ少シク其所以チ陳ベン、夫レ凡テ病毒ノ發生スルヤ、多クハ外因ノ刺撃誘引ニ依ルト雖モ、又内因ノ積ンデ感ズルニ因ラズンバ非ズ故ニ繼令ヒ一度ハ能ク其病毒ヲ驅除スルモ内因新タニ積デ一旦外因ノ刺撃ニ會ヘバ、忽チ還テ其毒ヲ逞フスルニ至ルハ、百種傳染病皆然リ、譬ヘテ之ヲ言ハバ細管ヲ通シテ水ヲ桶中ニ注グカ如シ、假令其水量ハ極メテ微々タルモ、間斷ナク之ヲ注瀉スレバ終ニハ溢レテ流出スルニ至ラン、今桶底ニ穴ヲ穿チ一度此ノ水ヲ排除スルモ、若シ復タ木栓ヲ採テ此ノ穴ヲ塞ガバ、細管ノ水復タ久シク積ンデ再ビ溢ル、ニ至ル可シ、痘毒又此ノ如キノミ、縦シ種痘シテ一旦其毒ヲ驅除スルモ、歲月ノ久シキニ彌ラバ忽チ復タ感能ノ勢力ヲ新ニスルヤ、恰カモ彼ノ微々タル細管ノ水再ビ溢ル、ニ至ルニ似タリ尚ホ一例ヲ舉ゲテ之レヲ證センカ、茲ニ迂濶ナル一農夫アリ、或年其ノ所有ノ畑地ニ唐芋ヲ作り、多分ノ收穫アルヲ見テ、翌年復タ其ノ畑地ニ里芋ト稱スル他ノ種類ノ芋ヲ植エ附ケタリ、然ルニ秋熟ノ期ハ至ルモ毫モ其ノ莖葉ノ生長ヲ見ザリシカバ

七
農夫怪ミテ其地ヲ穿ツニ、豈ニ圖ランヤ、初メ植エ付ケタル親芋ハ子芋ヲ結バズモテ腐敗シ影モ無ク形モ無ク悉ク皆ナ消失シタリ、是レ農夫ハ一旦芋ヲ作りタル土地ハ數年ヲ經過スルニ非ザレバ、再ビ芋ノ收穫ヲ望ムベカラザルヲ知ラズシテ、此ノ失敗ヲ招ギシナリ、然レモ農夫ガ此ノ偶然ノ失敗ハ恰モ能ク種痘ニ依テ天然痘ヲ豫防スルノ好適例ヲ示セリ、今其ノ唐芋ヲ以テ牛痘ニ比セバ、其ノ里芋ハ是レ天然痘ニ非ズヤ、又タ其ノ數年ヲ經過セザレバ、再ビ同様ノ收穫ヲ望ム可カラザルハ是レ一度ノ種痘ヲ以テ數年ノ眞痘ヲ豫防シ得ルニ異ナラザルナリ、夫レ然リ然レモ一度種痘シテ以テ永年安心スルヲ得ベキカ否ナ々々々々決シ然ラズ見ヨ光陰流水ノ如シ須臾ニシテ數年ハ經過スベシ、此ノ間充分ナル感能力ヲ積ム、恰カモ又タ正ニ農夫ガ再ビ芋ノ收穫ヲ望ムノ期ヲ送り來ルナシトナサザルナリ、然ルニ諸君漫然之レヲ忽諸ニ付セバ是諸君ノ爲ス所風前ノ燈火ニ非ラズシテ何ゾ、豈ニ危キニ非ズヤ豈ニ危キニ非ズヤ、頃者或人余ヲ難シテ、曰ク、聞クガ如クンバ、天然痘ハ種痘後數年

ナ經過スルニ非ザレバ、決シテ感染スル者ニ非ズト、然ルニ余ハ接種シテ、未ダ三
年ニ至ラズ、己ニ天然痘ノ感染スル所トナレリ、種痘ノ功果シテ何クニカアル、先
生又々遞辭アルヲ得ンヤト、即チ就テ之ヲ診スルニ、其形狀稍々尖リ痘ノ大小一様
ナラズ是レ天然痘ニハアラズ變痘ト稱スルモノニシテ、亦ダ一種ノ痘質ナルニハ、相
違ナキモ其性至ツテ微弱ナルモノナレバ、決シテ之ガ爲メニ生命ニ關スル等ノ虞ナ
キノミナラズ、平癒後ニ至リ痘痕ヲ留ムルノ憂ヒダモアルコトナシ、然レモ若シ其
ノ膿汁ヲ採ツテ之レヲ、未痘兒ニ感染セシムル時ハ、忽チ眞痘ニ戻ルモノニシテ、
且ツ變痘ハ凡テ種痘者ニ限り、感染スル者故若シ嚮キニ種痘セザリシナランニハ、
其人ヤ實ニ危フカリシナリ、今更ニ一例ヲ設ケテ眞痘ノ關係如何ヲ示サント
ス、諸君請フ試ミニ一年其ノ畑地ニ粟ヲ作り見ヨ、而シテ翌年復タ其ノ同一ノ土地
ニ再ビ之ヲ時キ附ケタル粟ハ眞ノ粟ヲ生ゼズシテ、草粟ト變ルベシ、今復タ其草粟
ヲ採リテ之ヲ他ノ新地ニ時キ附見ヨ、其草粟ノ種ハ草粟ヲ生ゼズシテ却テ又ダ元ノ

粟ニ復スルヲ見ルベシ、諸君此粟ヲ以テ眞痘種ト假定セヨ、其一年粟ヲ作りシ土地
ハ猶ホ種痘ヲ施セシ皮膚ノ如キニ非ズヤ、見ヨ其翌年草粟ノ生ゼシハ、是レ變痘ニ
感染セルナリ、而シテ又其草粟ヲ新地ニ移スニ、草粟ヲ生ゼズシテ却テ元ノ粟ニ復
スルヲ見ルハ、又恰カモ是レ變痘ノ膿汁ヲ取テ、之レヲ未痘兒ニ感染セシムルニハ、
變痘ヲ生ゼズシテ却テ眞痘ニ戻ルト一般ナリ、夫レ此ニ由テ之ヲ看レバ、一旦牛痘
ヲ接種セルモノハ、其後數年間或ハ變痘ニ感染スルコトアルモ、決シテ天然痘ニ感
染スルノ虞レアルコトナシ、彼ノ或人が非難セシ要點即チ種痘ノ功果ヲ疑フニ至リ
シ事情ハ今却テ偶々之ヲ保證スルノ事實トナレリ、
然レドモ土地ニ肥瘠ノ別アルガ如ク皮膚ニ感能ノ遲速アリ今豆作ノ例ヲ擧ゲテ之ヲ
説明セン余諸ヲ農夫ニ問クニ一旦其豆ヲ作りタル畑地ハ其後數年間豆ノ豐作ヲ見ル
能ハズ但シ土地ノ肥瘠ニ因リ一概ニ之レヲ定メ難シトス假例ハ上々ノ畑地ニ在ツテ
ハ數年間作り返スモ年々猶ホ其ノ收穫ヲ見ルベク夫レヨリ稍々下リタル土地ニ於テ

ハ漸次其ノ收穫ヲ減シ再作ヨリ三四作ニ至レハ莖葉生長シ花ヲ着ケ莢ヲ結ブモ其莢
タル空莢多クシテ豆子稀レニ、更ニ其ノ最下等ノ畑地ニ至テハ數年ヲ經過スルニア
ラザレバ其初年ニ比スルノ收穫ヲ望ム可カラズ是等ノ畑地ニ於ケル再作三四作ニ至
ツテハ莖葉萎靡シテ生色ナク花ヲ見ルヲ至ツテ稀ニ莢ノ如キハ其形ヲ結バザルモノ
多シ現ニ赤城山麓ナル各村落ニ於テハ豆後七ヶ年ヲ厭フト云フ俚諺アリ土俗ハ馴レ
テ通常ノ事柄トナセリト余思フニ瘠瘡亦ダ斯ノ如ク人ニ由テ各々其感能ノ遲速アリ
甲ハ五年ニシテ感能力ヲ起シ乙ハ十年ニシテ之レヲ起シ丙ハ十五年ニシテ之レヲ起
セリ然ルニ丁ハ數十年ニシテ初メテ之レヲ再新セリトセバ甲ハ恰モ上畑ノ收穫ヲ復
スルノ速カナルガ如ク乙ト丙トハ中畑地ノ如ク丁ニ至テハ即チ下々ノ下畑ノ如シ夫
レ然リ人ニ由リテ各々其感能ノ遲速ヲ異ニスル恰モ畑ニ上中下ノ別アル如キモ畑地
ハ年々之レヲ使用シテ滅却スルノ期ナシ如何セン人体ハ則チ之レト異リ若シ一朝其
感能力ヲ起スヤ猛烈ナル刺撃ハ忽チ其生靈ヲ奪フニ至ル人生一度去ツテ復タ回ラヌ

ベカラズ千年萬年、前後唯ダ茫々漠々タリ悲矣哉人、神明ニアラズ誰レカ豫メ得テ
己レガ感能ノ遲速ヲ知ラン況ンヤ又數町ノ地盤ニ僅々數歩ノ豆ヲ作ルガ如ク五尺ノ
身軀皮膚固ヨリ廣シトセザルモ僅ニ數點ノ種痘ヲ以テ全然滿身ノ感能力ヲ滅盡スル
丁ヲ得ベキヤ寔ニ是レ覺束ナキ事ト云フベキナリ見ヨ々々然ラハ則チ種痘ハ再三再
四年々歳々之レヲ怠ルベカラザルモノナルコトハ今ヤ諸君ノ已ニ明カニ知了セラル
、ナラント信ズルナリ
嗚呼古代人民ガ恐怖シテ、大惡魔トナセシ天然痘ハ今日種痘ノ術ニ依テ漸ク豫防ノ
法ヲ得タリト雖モ、若シ少シク之ヲ忽諸ニ附スル時ハ、忽チ其魔翼ヲ張り、霧地風
ヲ捲キテ各天ニ猖狂シテ、勢ヒ又々制止ス可カラザルニ至ル已ニ昨年「東京府下ニ流
行セル天然痘ノ如キハ其一月一日ヨリ二月二十五日迄ニ、患者二千八百四十四人ニ
シテ、死亡ハ五百三十三人ナリ、之ヲ去ル廿三年ノ虎烈則ニ比スルニ、患者ノ多キ
コト四百ヲ超ヘタリ、以テ其勢ノ猖獗ナリシヲ知ルニ足ルベシ嗚呼醫事ノ進歩セ

ル東京府下ニ於ケル猶ホ且ツ斯ノ如シ、豈寒心セザル可ケンヤ、夫レ此時ニ當リ之ヲ防壓スル、宜シク各人ノ協力セザルベカラザル所ナリ、經濟學者、或ハ較モスレバ人口不可増ノ説ヲ爲シテ曰ク、今日社會ノ疲弊ハ人口過増ノ致ストコロ、若シ此ノ儘ニ放任シテ數十百千萬年ヲ經過セバ、社會ハ餓鬼ノ道程ト化シ去ル可ク、遂ニ人ナク食フノ慘狀ヲ見ルニ至ラントス、疾病戰爭ハ、是レ人口過増ノ好制裁ニシテ又社會ノ最要件ナリ、天ノ時ニ疾病ヲ下マス、決シテ厭惡スベキニアラザルナリト、此説亦タ理アリ、然レドモ人類能ク、同胞ノ四邊ニ悲泣スルヲ聽テ哀マザルヲ得ルカ、況ンヤ其ノ目前ニ斃死スルヲ見テ、能ク悽然メラザル者アラシヤ、人情已ニ然リ、豈ニ又タ此際之レガ救濟ノ策ヲ講ゼズシテ可ナランヤ、蓋シ其策トハ何ツ、乞フ余ヲシテ先ツ之ヲ述ベシメヨ、余ハ思フ今日種痘ノ術頗ル傳播セザルニ非サルモ尙ホ一層之ガ普及ヲ圖リ、以テ全ク天然痘ヲ豫防シ盡スニアリト然ラバ其ノ之ヲ爲ス果シテ如何、他ナシ一般醫師社會ヲシテ無料種痘ヲ以テ他衆庶ニ對スルノ德義ト

ナサシメ、衆人ハ又タ種痘ヲ怠ラサルベク、之ト同時ニ復タ別ニ天然痘治療醫員ト云フヲ設ケテ、(是レ留ニ天然痘流行ニ際シテノ必用ト云フニ非ズ、)特ニ天然痘患者ノミヲ取扱ハシメ、尋常醫師ハ一切痘瘡ノ患者ヲ取扱ハサルモノトシ、若シ知ラズシテ之ニ接スルトキハ直ニ其治療醫員ニ引渡シ、互ニ能ク其德義ノ制裁ヲ守ラシムルニアリ、是レ尋常醫師ニ在ツテハ他諸種ノ患者ニ接セザル可カラザルガ故ニ醫師却テ感染ノ媒介ヲ爲スノ虞レアルヲ以テナリ、抑モ我が群馬縣前橋地方ニ於テハ去ル明治十八年一月以來醫師同盟シテ無料ノ種痘ヲ行フ茲ニ八星霜ニ餘レリ、余輩私カニ謂ラク、是レ實ニ前橋醫師社會ノ美譽ナリト、又タ私カニ以爲ラク諸人ハ定メテ之ニ由テ種痘ニ漏ル、ノ遺憾ヲ免カル可シト、何ツ料ラン今回ノ流行ニ際シ市人尙ホ動モスレバ種痘ヲ等閑ニ看過シ、又タ動モスレバ之ヲ忌避スルモノアラントハ、或ハ風邪ノ未ダ全ク去ラザルヲ口實ト爲シ、以テ尙クモ之ヲ免レント欲スルモノアリ、緩急ヲ誤ル何ゾ一ニ斯ニ至ルヤ、未ダ風邪ニ因テ忽チ生命ヲ危フスル

モノハアラズ況ンヤ種痘ニ於テサヤ、且ツ痘瘡人ニ非ラズ風邪ノ癒ニルヲ待タサル
 チ如何ニセン、然ルニ或ルモノハ亦タ説ヲ爲シテ曰ク、天然痘流行ノ期ニ當テ種痘
 スルハ、却テ偶々之レヲ誘引シテ並發スルノ虞レアリト、是レ現ニ種痘ノ際婦女子
 ノ往々危ブミ問フ所ナリ、然レドモ其時ニ並發スルコトアルハ、既ニ天然痘ニ感染
 シツ、アルヲ知ラズシテ、種痘ヲ施セシモノニシテ、其危篤ニ逼ルノ原因、或ハ種
 痘ニ在ルガ如ク見ユルモ、是レ偶然ナルノミ、豈ニ僅々數點ノ種痘誘引シテ以テ俄
 カニ斯ニ至ルモノナランヤ、試ミニ思見ヨ火機ノ正ニ伏在セルニ當リ一炬ヲ投ズル
 モ、投ゼザルモ、之ガ爲ニ火焰ノ勢力ヲ増減スルモノニ非ザルヲ、甚シヒ哉世人
 ノ迷謬ヲ懷クヤ、尙ホ動モスレバ加持祈禱ノ力ニ依頼シテ、天然痘ヲ隱蔽シ、其ノ
 漸ク危篤ニ逼ルニ至リ、親族知己ニ苦諫セラレ、始メテ醫師ノ門ニ救ヲ求ムルモノ
 アリト雖モ、是レ實ニ痴愚ノ骨頂ナルノミ、醫師ハ別ニ社會ニ對スルノ義務アリ一
 人ノ爲メノ故ニ他ノ多數ノ患者ニ接スル能ハザルノ不便ヲ感ズルヲ以テ、止ムヲ得

オ之レヲ謝絶スルガ故ニ、治療醫員ノ設定ナキ今日看々患者ヲシテ死ニ至ラシムル
 等世間此種ノ人未ダ以テ少シト爲サズ、嗚呼何ツ風ク種痘セザリシヤ是レ獨リ一地
 方ニ就テノ言フニアラズ見ヨ流行期毎ニ各地ニアリテ天然痘ニ感染セルハ皆ナ悉
 ク種痘ヲ怠リシニ非ルナシ此ニ於テカ知ル天然痘治療醫員設置ノ必用ナルコト今日チ
 措テ將タ何レノ日ゾヤ

夫レ種痘ハ天然痘ニ對スル、唯一無類ノ豫防法ニシテ、而カモ安全確實ナル豫防法
 ナルナリ、然ルニ此ノ安全ナル豫防法アルニモ係ハラズ、此ノ猖獗ナル流行期ニ際
 シ、之レヲ用ヒズシテ其身ヲ亡フ者ニ至ツテハ、吾輩實ニ其ノ何ノ心ナルヲ知ルニ
 苦ムナリ、夫レ豫防ノ方法斯ノ如ク、醫師ノ盡力斯ノ如ク、而シテ猶ホ天然痘ヲ豫防
 スル能ハズト云ハ、其各將タ誰ニカ歸セン、縱シ諸君ハ自業自得トシテ諦メモセヨ、
 害ヲ他人ニ及ボスニ至ツテハ諸君豈ニ社會ニ對スルノ責ナシト云フマケンヤ、青春
 陽和ノ天、南國東隄、花將サニ咲ハント欲シ、黃鳥晴ヲ弄シテ、柳條篋竹ニ囀ツル

ノ候、獨り痘瘡ニ苦惱シ、悔ヒテ既往ヲ顧レバ、平常嘗テ身ニ疾病ナク強壯銀ノ如クナルニ誇リシモノ、衰弱枯槁忽チ此ニ至ラントハ思ヒ依ラザリシコトナル可シ羅綺ノ無情ナル誰ガ爲メニ新ナルヤ交友霞袂ニ列チテ三春ノ行樂ヲ盡ス良コトニ羨ムニ堪ヘタリ此時ソノ中心果シテ如何音ニ其人ノ遺憾ナルノミナラス若シ其親戚知己ノ心事ニ至ツテハ又々更ニ悲痛スベキモノアルナリ、百卉媚チ呈スル時人己ニ亡レ之ヲ春風ニ問ヘドモ寂寞トシテ應ヘズ、起テ庭前ニ徘徊スレハ、李花雨ヲ帯ビテ愁チ含ムガ如ク、音容彷彿夢カ、幻カ、枝上嗶々ノ鳥聲何ツ悲シキ池邊離々ノ草情偏ニ繁シ、白楊墓畔日暮テ風寒ク人ヲシテ惆悵去ル能ザラシメントス而シテ是レ何ノ爲メニ茲ニ至リシヤ一人種痘ヲ怠リシガ爲メニ可憐幾多ノ袂袖ヲ濡シ身ハ非命ニ死シ齒址荒レ墳墓朽ツ豈ニ少シク心セズシテ可ナランヤ、無料種痘ヲ以テ醫師社會ノ他ニ對スルノ德義トナスト、同時ニ諸君モ亦少クトモ、凡ソ五ヶ年毎ニハ必ズ種痘スルコト、ナシ、殊ニ流行期ニ際シテハ一日モ之レヲ怠ラザルヲ以テ、一般社會ニ

對スルノ義務トナシ、萬一接種スルモ感染セザル時ハ、年々歳々其功ヲ見ルニ至ル迄之レヲ施シテ廢セザル可シ、之レヲ要スルニ諸君ト醫師ト協力シテ以テ天然痘ヲ豫防セザルベカラズ、縱令醫師ノミ如何ニ盡力スルモ若シ諸君ニシテ種痘ヲ怠ラランカ、到底満足ナル豫防ノ功果ヲ奏スル能ハザルナリ、昔時未ダ牛痘發明ノアラザリシ世ハ、天然痘ハ皆繼椽ノ中ニ感染セシカバ、痘瘡兒々々々々ト呼ビ馴レ來リシガ、種痘ノ行ハル、今日嬰兒ハ皆接接スルガ故ニ殆ンド又々絶エテ痘瘡兒ト呼ブベキモノヲ見ザルモ、之レニ反シテ大人ハ却テ種痘ヲ忽カセニスルノ傾向アリシガ爲メ、近年ニ來リ天然痘ノ患者ハ、小兒ハ至ツテ稀ニシテ大人ノミ多ク殊ニ今回ノ流行ノ如キハ、慘又慘ヲ極メ一家數口、幼兒ヲ殘シテ皆ナ其襲フトコロトナルモノアリ、痘瘡姉、痘瘡兄、阿爺、阿母、亦枕ヲ並ベテ臥ス、是レ斯ノ子此ノ親ヲ失ハリ、將サニ何ソニ適ントスルヤ、諸君夫レ此ニ至ツテ尙ホ種痘ヲ忽セニセントスル乎嗚呼諸君、諸君若シ諸君ニシテ身ヲ惜マズンバ則チ止ム、又若シ慈子愛孫ノ不幸ヲ

悲マインハ則チ止ム、荷モ否ヲト云ハ、蓋テ一刻モ早ク往テ種痘ヲ施サザル、醫ニ曰ク天ノ未ダ陰雨セザルニ及ンデ隔戸ノ網纏ヲ怠ル勿レト、知ラズ諸君以テ如何ト爲スヤ、

茲ニ尙ホ一事種痘者ニ注意スベキモノアリ、本來種痘後ハ時々醫師ノ診察ヲ受クルチ宜シトス、然ルニ世人ハ膿汁ヲ取ラレンコトヲ氣遣ヒテ、醫師ヲシテ診察セシメザル者多シ、故ニ醫師ニアツテハ其眞痘ヲ生ゼシヤ變痘(又化痘)ヲ生ゼシヤ、(種痘ニ眞痘變痘アリ)將タ其後ノ様体ヲ知ルコト能ハズ、是レ醫師ノ最モ遺憾トスルトコロナリ、何トナレバ時トシテ其丹毒或ハ腺病皮膚病等ヲ合併スル時ハ、其治療ヲ要シ又々機械的ノ刺衝(則チ衣服ノ摩擦又ハ爪破等)或ハ他ノ原因ニ由テ壞傷セシモノ等ノ如キハ、往々不正ノ經過ヲ取リ從テ豫防ノ効力ニ疑ハシキコトアレバナリ、今此ニ牛痘ヲ接種セル者ニシテ眞痘ヲ生ゼシ者、及ビ變痘ヲ生ゼシ者ノ經過ニ付キ其要點ヲ述ベン、

眞痘ハ、初種ニ在テハ初メ第二日ノ終或ハ第三日ノ初ニ至リ接種部ニ乳嘴疹狀ヲ呈シ、第三四日ニ於テ漸次水泡疹狀トナリ、第六七日ニ於テ全ク水泡トナリ、中心ニ陥凹ヲ呈ス、第八九日ニ至リ全ク生育シテ眞珠色ヲ呈シ透明ノ液ヲ充テ中心陥凹著明ニシテ周邊硬結ス、第八九日ヨリ膿熱ヲ起シ痘ノ周圍ニ赤色ノ炎ヲ發シ尙ホ一二日間炎症増加シ、第十日ニ至リ紅暈消失シ、第十四日ニハ褐色ノ痂ヲ結ビ漸次乾燥シテ黑色トナリ、第二十日ヨリ第二十五日ニ落浙シ陥凹シタル癍痕ヲ遺スベシ、而シテ爰ニ注意スベキハ紅暈著明ニシテ其ノ直徑二、五乃至七ミリメートルニ達シ、多少全身疹ヲ伴フヲ可トス、全身症ハ嬰兒ハ幼童ヨリ幼童ハ大人ヨリ輕キヲ常トス、大人ノ初種ハ經過遲延シテ紅暈蔓延シ腋下腺ノ腫大ヲ誘發スルコト多シ、或人ハ一週間遲延シタル症ヲ目撃セシコトアリト云フ、然レドモ種痘ノ効力ニハ關スルコトナシ、之レニ反シテ一兩日經過早速ナルコトアルモ紅暈十分發生スルトキハ妨ゲナシ、但シ遲延症ヨリモ早速症ニハ其効力ニ疑ヲ置

クベキコト多シトス
 變痘ハ接種セル日ヨリ痒味ヲ生シ、赤色乳嘴疹狀ヲ呈シ、漸々腫大ニシテ其形隆起シ、著シク水泡期ト膿期ト不規則ナルモノナリ、水泡期トナルヤ否ヤ化膿期トナリ、化膿期トナルヤ否ヤ結痂シ、十日乃至十五日ニシテ落痂ス、之ヲ眞痘ニ比スレバ殆ンド十日許リ早ク、落痂スルモノニシテ落痂後眞痘ニ在テバ、癩痕ノ周圍ニ稍々銹齒狀ヲ遺シテ長ク消滅セザルモ、變痘ハ之ニ反シテ癩痕平滑ニシテ毫モ銹齒狀ヲ遺サルノミナラズ、數月ヲ經過スルニ從ヒ漸々消滅シ絶エテ其癩痕ヲ留メザルニ至ル、
 普通ノ經過大略此ノ如シ諸君能ク之レヲ注意セバ大ニ參考トナル可キナリ

左ニ掲グルハ去年(明治廿五年)一月初ヨリ本年(全廿六年)一月末ニ至ル高崎町ニ於ケル天
 表ニシテ群馬縣衛生課ノ帳簿ニ據リテ編成セルモノナリ先ツ此表中年齡種別ノ部ニ就
 未滿ノ者ハ其數至テ僅少ニシテ(是レ嬰兒ハ大概種痘セルニヨル)初種痘濟ノ者ヨリ以
 最モ多ク即チ未種痘者百十八人初種痘者濟ノ者百八十七人再種痘者卅五人再三種痘
 濟ノ者百八十八人ナリトス今未種痘者ハ種痘漏レノモノナルベケレバ姑ク之ヲ措キ其他ニ就
 ニ再三種痘濟ノ者ヨリハ再種痘濟ノ者ヨリ初種痘濟ノモノニ多ク殊ニ茲ニ注意ス可キ
 比シテ再三種痘濟ノ者却テ其數ノ少キコト是レナリ之レニ由テ看レバ種痘ノ度數ニ反
 ノ多キヲ知ル是レ種痘ハ再三四之レヲ施スニ從テ益々其功果ノ顯著ナル事ヲ示セシモノ多
 ナリ表中眞痘變痘ノ種別ヲ設ケザルハ届出ノ書類中單ニ痘瘡患者トシテ記セシモノ多
 スルニ由ナケレバナリ左表ハ實ニ今日迄群馬縣廳へ届出デタルモノ、ミナ録セルモ
 幾多ノ隱蔽セルモノアル可ケレバ直チニ之レヲ以テ一般患者ヲ總計シ盡シタリトナ
 表ニ掲グル明治二十五年中月別患者ノ數ヲ見ルニ一月ヨリ九月ニ至ル迄月々幾許ノ
 至リ必ズ其因由ヲ知ルニ苦シマントス余又々其ノ初メ實ニ之ニ迷ヒシナリ然レドモ
 其十月中一人ノ患者ヲ見ザリシハ患者ナキニアラズシテ之レヲ隱蔽セルニ因ルノミ
 ニ長足ノ増加ヲナシツ、アリシガ偶々警官町吏ノ摘發スルトコロトナリ忽チ非常ノ
 シナリ讀者ヨ若シ輕々此表ヲ看過セズンハ其隱蔽ノ大害ヲ知ルニ於テ思ヒ半ニ過ル

醫士 櫻井傳

明治廿五年中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ別
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

種別	月別	年 齡 之 種 別				
		自卅一年至四十年	自廿一年至三十年	自二十一年至三十一年	自十一年至二十年	一年未滿ノ年
一	二月	八	〇	一	一	〇
二	三月	九	〇	三	四	〇
三	四月	六	〇	八	二	〇
四	五月	五十六人	〇	十四人	二十八人	十八人
五	六月	三十八人	一	八人	十人	十一人
六	七月	十九人	〇	五人	八人	四人
七	八月	十四人	一	四人	三人	三人
八	九月	十人	〇	五人	三人	二人
九	十月	四人	〇	一人	三人	一人
十	十一月	〇	〇	〇	〇	〇
十一	十二月	三十八人	〇	一人	十四人	〇
十二	合計	百八十八人	五	八十八人	百八十八人	百二十人
合計	患者百人中	三百七十五人	七	八十八人	百八十八人	十四人
患者百人中	死	七十三人六分	二十六人四分			

左ノ表ハ種痘濟及天然痘濟ノモノニシテ再ヒ天然痘ニ感染セシ人員ヲ區別セシ者

未種痘兒 初種痘者 再種痘者 再三種痘濟ノモノ 天然痘濟者

百十人 百八十七人 三十五人 二人

明治廿六年一月中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

種別	月別	者數	年 齡 之 種 別				
			自卅一年至四十年	自廿一年至三十年	自二十一年至三十一年	自十一年至二十年	一年未滿ノ年
一	一月	二百五十五	三	六四	六九	九五	一八
未ダ病氣中ノモノ		百四十二人					

左ニ掲グルハ去年(明治廿五年)一月初ヨリ本年(全廿六年)一月末ニ至ル高崎町ニ於ケル
 表ニシテ群馬縣衛生課ノ帳簿ニ據リテ編成セルモノナリ先ツ此表中年齡種別ノ部ニ
 未滿ノ者ハ其數至テ僅少ニシテ(是レ嬰兒ハ大概種痘セルニヨル)初種痘濟ノ者ヨリ以
 最モ多ク即チ未種痘者百十八人初種痘者濟ノ者百八十七人再種痘者卅五人再三種痘
 濟ノモノ四人ナリトス今未種痘者ハ種痘漏レノモノナルベケレバ始テ之ヲ措キ其他ニ就
 ニ再三種痘濟ノ者ヨリハ再種痘濟ノ者ヨリ初種痘濟ノモノニ多ク殊ニ茲ニ注意ス可キ
 比シテ再三種痘濟ノ者却テ其數ノ少キコト是レナリ之レニ由テ看レバ種痘ノ度數ニ反
 ノ多キヲ知ル是レ種痘ハ再三四之レヲ施スニ從テ益々其功果ノ顯著ナル事フベカラ
 ナリ表中眞痘變痘ノ種別ヲ設ケザルハ届出ノ書類中單ニ痘瘡患者トノミ記セシモノ多
 スルニ由テケレバナリ左表ハ實ニ今日迄群馬縣廳へ届出テタルモノノミヲ錄セルモ
 幾多ノ隱蔽セルモノアル可ケレバ直チニ之レヲ以テ一般患者ヲ總計シ盡シテトナ
 表ニ掲グル明治二十五年中月別患者ノ數ヲ見ルニ一月ヨリ九月ニ至ル迄月々幾許ノ
 ズ其十月ニ至テハ一人ノ患者ヲ見ズ然ルニ越テ十月十二月ニ至リ俄然又テ非常ノ増
 至リ必ズ其因由ヲ知ルニ苦シマントス余又テ其ノ初メ實ニ之ニ迷ヒシナリ然レドモ
 其十月中一人ノ患者ヲ見ザリシハ患者ナキニアラズシテ之レヲ隱蔽セルニ因ルノミ
 ニ長足ノ増加ヲナシツ、アリシガ偶々警官町吏ノ摘發スルトコロトナリ忽チ非常ノ
 シナリ讀者ヨ若シ輕々此表ヲ看過セズンバ其隱蔽ノ大害ヲ知ルニ於テ思ヒ半ニ過ル

醫士 櫻井傳

明治廿五年中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ別
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

種別	年 齡 之 種 別				
	自卅一年至四十年	自廿一年至三十年	自十一年至二十年	自一年至十一年	一年未滿ノ年
一 月	二	〇	一	一	〇
二 月	九	〇	三	四	〇
三 月	六	〇	三	二	〇
四 月	五十六	〇	十四	二十	十八
五 月	三十八	一	八	十	十一
六 月	十九	〇	五	八	四
七 月	十四	一	四	三	三
八 月	十	〇	五	三	二
九 月	四	〇	一	〇	三
十 月	〇	〇	〇	〇	〇
十一 月	三十八	〇	一	一	十四
十二 月	百八十八	五	四十四	五十六	六十三
合 計	三百七十五	七	八十八	百八	百二十
患者百人中	治 七十三人 死 二十六人	六分	四分		
未種痘兒	百十八人	初種痘者	百八十七人	再種痘者	三十五人
天然痘濟者	四人	再三種痘濟者	二人		

明治廿六年一月中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

種別	年 齡 之 種 別				
	自卅一年至四十年	自廿一年至三十年	自十一年至二十年	自一年至十一年	一年未滿ノ年
一 月	二百五十五	三	六四	六九	九五
未ダ病氣中ノモノ	百四十二人				

普通ノ經過大略此ノ如シ諸君能ク之レヲ注意セバ大ニ參考トナル可キナリ

ルハ去年(明治廿五年)一月初ヨリ本年(廿六年)一月末ニ至ル高崎町ニ於ケル天然痘患者ノ統計
 群馬縣衛生課ノ帳簿ニ據リテ編成セルモノナリ先ツ此表中年齡種別ノ部ニ就テ之ヲ見ヨ一年
 六其數至テ僅少ニシテ(是レ嬰兒ハ大概種痘セルニヨル)初種痘濟ノ者ヨリ以上大人ニ至ルノ間
 即チ未種痘者百十八人初種痘者濟ノ者百八十七人再種痘者卅五人再三種痘濟ノ者二人天然痘
 四人ナリトス今未痘者ハ種痘漏レノモノナルベクテレバ姑ク之ヲ措キ其他ニ就テ其數ヲ比較スル
 痘濟ノ者ヨリハ再種痘濟ノ者ヨリ初種痘濟ノモノニ多シ殊ニ茲ニ注意ス可キハ天然痘濟ノ者ニ
 三種痘濟ノ者却テ其數ノ少キコト是レナリ之レニ由テ看レバ種痘ノ度數ニ反比例シテ痘瘡患者
 知ル是レ種痘ハ再三四之レヲ施スニ從テ益々其功果ノ顯著ナル事ヲ證スルベカラザルニ足ル
 眞痘變痘ノ種別ヲ設ケザルハ屆出ノ書類中單ニ痘瘡患者トノミ記セシモノ多クシテ之レヲ類別
 ナケレバナリ左表ハ實ニ今日迄群馬縣廳へ屆出テタルモノノミヲ錄セルモノニシテ其他尙ホ
 蔽セルモノアル可ケレバ直チニ之レヲ以テ一般患者ヲ總計シ盡クナリトナスベカラズ已ニ該
 明治二十五年中月別患者ノ數ヲ見ルニ一月ヨリ九月ニ至ル迄月々幾許ノ患者アリシニ係ラ
 ニ至テハ一人ノ患者ヲ見ズ然ルニ越テ十月十二月ニ至リ俄然又々非常ノ増加ヲ見ル讀者茲ニ
 其因由ヲ知ルニ苦シマントス余又々其ノ初メ實ニ之ニ迷ヒシナリ然レドモ是レ怪ムベカラズ
 一人ノ患者ヲ見ザリシハ患者ナキニアラズシテ之レヲ隱蔽セルニ因ルノミ而シテ此間暗々裡
 増加ヲナシツ、アリシガ偶々警官町吏ノ摘發スルトコロトナリ忽チ非常ノ増加ヲ見ルニ至リ
 者ヨリ若シ輕々此表ヲ看過セズンハ其隱蔽ノ大害ヲ知ルニ於テ思ヒ半ニ過ルモノアララン

醫士 櫻井傳三

治廿五年中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ別
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

年 齡 之 種 別	自卅一年至四十年		自廿一年至三十年		自十一年至二十年		一年未滿ノモノ		年齡不明ノモノ		全治及死亡
	自卅一年	至四十年	自廿一年	至三十年	自十一年	至二十年	一年未滿	年齡不明	全治	死亡	
二 人	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全治二
九 人	○	○	三	三	四	○	○	二	○	○	全治一八
六 人	○	○	三	二	一	○	○	○	○	○	全治二四
五十六人	○	○	十四人	二十人	十八人	四	○	○	○	○	全治四十六
三十八人	○	○	八人	十人	十一人	一	○	七	○	○	全治二十七
十九人	○	○	五人	八人	四人	○	○	二	○	○	全治一十八
十四人	○	○	四人	三人	三人	○	○	三	○	○	全治三十一
十人	○	○	五人	三人	二人	○	○	○	○	○	全治三十
四人	○	○	一人	○	三人	○	○	○	○	○	全治一三
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	全治一
三十人	○	○	一人	一人	十四人	○	○	十四人	○	○	全治十七
百八十八人	○	○	四十四人	五十六人	六十三人	九	○	十一人	○	○	全治百三十三
三百七十五人	○	○	八十八人	百八人	百二十八人	十四人	○	卅九人	○	○	全治二百七十七
死七 七十三人六分	死七 二十六人四分										死亡九十九人

種痘濟及天然痘濟ノモノニシテ再ヒ天然痘ニ感染セシ人員ヲ區別セシ者

痘 兒	初種痘者	再種痘者	再三種痘濟ノモノ	天然痘濟者
八	百八十七人	三十五人	二人	四
八	百八十七人	三十五人	二人	八

治廿六年一月中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ別
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

每 月 患 者 數	年 齡 之 種 別	死亡及全治			
自卅一年至四十年	自廿一年至三十年	自十一年至二十年	一年未滿ノモノ	年齡不明ノモノ	死亡及全治
百八十七人	三十五人	二人	四	八	三十八人

ルハ去年明治廿五年一月初ヨリ本年(全廿六年)一月末ニ至ル高崎町ニ於ケル天然痘患者ノ統計
 群馬縣衛生課ノ帳簿ニ據リテ編成セルモノナリ先ツ此表中年齡種別ノ部ニ就テ之ヲ見ヨ一年
 者ハ其數至テ僅少ニシテ(是レ嬰兒ハ大概種痘セルニヨル)初種痘濟ノ者ヨリ以上大人ニ至ルノ間
 即チ未種痘者百十八人初種痘者濟ノ者百八十七人再種痘者卅五人再三種痘濟ノ者二人天然痘
 ノ四人ナリトス今未種痘者ハ種痘漏レノモノナルベケレバ始テ之ヲ措キ其他ニ就テ其數ヲ比較スル
 種痘濟ノ者ヨリハ再種痘濟ノ者ヨリ初種痘濟ノモノニ多シ殊ニ茲ニ注意ス可キハ天然痘濟ノ者ニ
 再三種痘濟ノ者却テ其數ノ少キコト是レナリ之レニ由テ看レバ種痘ノ度數ニ反比例シテ痘瘡患者
 知ル是レ種痘ハ再三四之レヲ施スニ從テ益々其功果ノ顯著ナル事フベカラザルヲ證スルニ足ル
 中眞痘變痘ノ種別ヲ設ケザルハ屆出ノ書類中單ニ痘瘡患者トノミ記セシモノ多クシテ之レヲ類別
 山ナケレバナリ左表ハ實ニ今日迄群馬縣廳へ屆出テタルモノハミヲ錄セルモノニシテ其他尙ホ
 隱蔽セルモノアル可ケレバ直チニ之レヲ以テ一般患者ヲ總計シ盡シクナリトナスベカラズ已ニ該
 月ニ至テハ一人ノ患者ヲ見ズ然ルニ越テ十月十二月ニ至リ俄然又々非常ノ増加ヲ見ル讀者茲ニ
 其因由ヲ知ルニ苦シマントス余又々其ノ初メ實ニ之ニ迷ヒシナリ然レドモ是レ怪ムベカラズ
 中一人ノ患者ヲ見ザリシハ患者ナキニアラズシテ之レヲ隱蔽セルニ因ルノミ而シテ此間暗々裡
 増加ヲナシツ、アリシガ偶々警官町吏ノ摘發スルトコロトナリ忽チ非常ノ増加ヲ見ルニ至リ
 讀者ヨリ若シ輕々此表ヲ看過セズンバ其隱蔽ノ大害ヲ知ルニ於テ思ヒ半ニ過ルモノアラソ

醫士 櫻井傳三

治廿五年中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ別
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

年	種別				全治及死亡				
	自卅一年至四十年	自卅一年至三十九年	自二十一年至自十一年	一年未滿ノモノ					
每月患者數	至四十年	至三十九年	自二十一年	自十一年	ノモノ	年未滿	年齡不明	全治	死亡
二	〇	〇	一	一	〇	〇	〇	二	〇
九	〇	三	四	〇	〇	〇	二	一	八
六	〇	三	二	一	〇	〇	〇	〇	〇
五十六	〇	十四	二十	十八	四	〇	〇	四	十六
三十八	一	八	十	十一	一	七	〇	二	十七
十九	〇	五	八	四	〇	二	〇	一	十八
十四	一	四	三	三	〇	三	〇	三	十一
十	〇	五	三	二	〇	〇	〇	〇	十
四	〇	一	〇	三	〇	〇	〇	〇	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
三十八	〇	一	一	十四	〇	十四	〇	〇	十七
百八十八	五	四十四	五十六	六十三	九	十一	〇	〇	三十七
三百七十五	七	八十八	百八	百二十	十四	卅九	〇	〇	七十七
全治	七十三人六分								
死亡	二十六人四分								
種痘濟及天然痘濟ノモノニシテ再ビ天然痘ニ感染セシ人員ヲ區別セシ者									
痘兒	初種痘者	再種痘者	再三種痘濟ノモノ	天然痘濟者					
人	百八十七人	三十五人	二人	四人					

治廿六年一月中高崎町痘瘡患者表

此ノ表ハ眞痘變痘ノ別
 ナク單ニ痘瘡ト稱ス

者數	年				全治	死亡及全治
	自卅一年至四十年	自卅一年至三十九年	自二十一年至自十一年	一年未滿ノモノ		
二百五十五	三	六四	六九	九五	一八	二六
百四十二人						

左表ハ明治二十五年一月ヨリ同二十六年一月ニ至ル前橋市ニ於ケル痘瘡世人ニ一覽セシメンガ爲メニ掲ケ昨明治二十五年一月中旬ヨリ同二十六年常種痘ヲ施行セシ處爾來益々傳播ノ勢ニテ五月ニ至リ患者ノ數俄ニ増加醫師並ニ醫官市吏共力シ數回臨時種痘ヲ施行セシ處夫レヨリ漸次ニ減少ハ一人ノ患者ナキニ至リシハ實ニ種痘ノ功力ナリ種痘ノ功力此ノ如ク大ノ喃々述ブルマデモナク患者ノ増加セルト否ヤトハ左ノ表ヲ一覽セバ明クバ世人爰ニ鑑ミテ種痘ヲ忽ニスル勿レ

醫士 櫻井傳

前橋市 自明治二十五年一月 痘瘡患者調査表

月別種別	年 齡												痘瘡 眞痘瘡		
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月		合計	患者 百人中
痘瘡	三三	七七	八二	〇七	二二	二二	一三	一〇					九六		眞痘瘡
眞痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	五五		眞痘瘡
痘瘡	〇四	三三	一一	三七	八一	四六	〇〇					二三			眞痘瘡
眞痘瘡	〇四	〇四	〇三	六三	八二	一一	一二					三〇			眞痘瘡
痘瘡	二五	三〇	一六	二五	二七	六四	〇一					二八			眞痘瘡
眞痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡
痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡
眞痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡
痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡
眞痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡
痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡
眞痘瘡	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		眞痘瘡

前橋市 自明治二十六年一月一日 痘瘡患者調査表

月別種別	年 齡					痘瘡 眞痘瘡
	一月	二月	三月	四月	五月	
痘瘡	二	二	一	一	一	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
痘瘡	一	一	一	一	一	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
痘瘡	三	三	三	三	三	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡
眞痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	眞痘瘡

種痘者ノ注意

櫻井傳三

余數年間種痘接種者ヲ實驗セシニ付キ、此ニ其注意ノ概略ヲ述テ聊カ世ノ參考ニ供セントス

種痘接種後ハ凡ソ三週間程沐浴セザルヲ宜シトス、然レドモ接種後六時間ヲ經過セハ夫レヨリ三日間ハ入湯スルモ妨ゲナシ第四日ヨリ第廿一日迄ハ入浴セザル様致スベシ、但シ半身浴ハ行フモ妨ゲ無キノミナラズ、却テ之レヲ行フヲ宜シトスハ殊ニ小兒婦人ハ、身体ノ不潔ニ至リ易キガ故ニ半身浴ヲ行フハ最も必要ナリ、接種後十四五日ヲ經テ入湯爲シ度片ハ、兩手ヲ頭上ニ舉ゲ種痘部ヲ湯ニ浸サ、ル様注意スベシ、又三週日ヲ經過セザル内ト雖モ、兩手ヲ湯ノ中ニ入レ沐浴爲シ度片ハ醫師ニ乞フテ其手術ニヨリ痛ミヲ覺ヘザル様痘疹ヲ剝離シ而ル後入浴スベシ、三週后入湯爲スルト雖モ痘疹ハ爪ニテ剝離シテ入浴スベシ、蓋シ其此ノ如ク痘疹ヲ湯ニ浸サ

ノ標注意セザレバ入湯ノ爲メニ痲癩軟化セラレテ、痲毒ヲ皮膚ニ吸収シ、腺病丹毒等ヲ起スノ虞有レバナリ、種痘後ハ便秘スルヲ常トス、故ニ時々下劑ヲ用ユルヲ佳シトス、何ントナレバ便秘スルハ皮膚病等ヲ發シ易クレバナリ、扶氏ハ落痲時ニハ便秘セズト雖モ亦下劑ヲ用ユルヲ佳シト説ケリ、余ハ明治六〇七〇八ノ三年間ニ凡ソ六千人ノ未痘兒及ビ數千人ノ再三種者ヲ種痘シ爾來今日ニ至ル迄ニ數萬人ニ接種シ經驗セシガ、扶氏ノ説ノ如ク下劑ヲ用ユル方宜シキナリ、是レ皮膚ト腸トハ交感性ヲ有スルガ故ニ腸胃ニ汚物ヲ鬱積スルハ皮膚ニ反應シ皮膚病等ヲ發シ易キヲ以テナリ、種痘經過中ハ時日ヲ經過セル物ヲ飲食スベカラズ、何トナレバ是レ血液ヲ悪性ニ變ズルノミナラズ腸胃ニ汚物ヲ鬱積セシメテ、諸症ヲ併發スルノ媒介トナレバナリ種痘經過中ハ能ク醫師ノ命ニ從ヘ注意ニモ尙ホ注意ヲ要スルコトナリ、種痘シテ感ゼシキハ、小兒ニハ廣袖衣ヲ着用セシメヨ、大人ニシテ勞働スル者ハ肉膈肌ヲ着用スベシ、之レヲ要スルニ爬搔又ハ摩擦破潰セザル様注意スルコトヲ要ス、嬰兒

ハ出産後六七十日ヲ經過シテ初メテ種痘ヲ施スヲ常トスレバ天然痘流行ノ際殊ニ患者接近ノ地ニ在ルキハ六七十日ヲ經ズシテ二週間以内ノ者ト雖モ必ズ種痘ヲ施スベシ、余ハ現ニ生後二週間ヲ經ズシテ天然痘ニ感ゼシ者ヲ見シ事アリ、是ノ例ニ依テ見ルモ生後六七十日ヲ經過セザルモノ間々感能者アルニ因リ天然痘流行ノ際ハ生後日數ヲ經過セズト雖モ必ズ速ニ種痘スルコトヲ怠ラザルベシ、天然痘流行セザル時ト雖モ、出生後二ヶ月以上八ヶ月以内ニハ必ズ種痘スベシ、何トナレバ八ヶ月後ハ生齒期ニ係リ小兒病ヲ發シ易キ故ニ、成ベク生齒期前ニ種痘スルコトヲ要スルナリ、種痘經過中ト雖モ平常慣用シ來リシ食物等ハ總テ禁忌スルニ及バズ、亦醫藥ヲモ要セス、種痘ノ時期ハ春秋二季ヲ以テ最良トスレバ、四季中何時種痘スルモ妨ゲアルコトナシ、醫師カ多ク春秋二季ニ種痘スルヲ以テ、世人ハ醫師ガ閑暇ノ時期(丁度芋種ヲ植付ル頃)種痘スル者ト思ヒ、之ヲ芋種ニ例ヘテ芋種痘瘡ト云ナリ、敢テ芋種ヲ植付ル頃ニ限ルニアラズ、四季何時ニテモ種痘ヲ怠ラザレバ可ナリ

明治廿五年十二月廿九日印刷

明治廿六年一月八日出版

明治廿六年二月廿六日印刷

明治廿六年二月廿七日再版

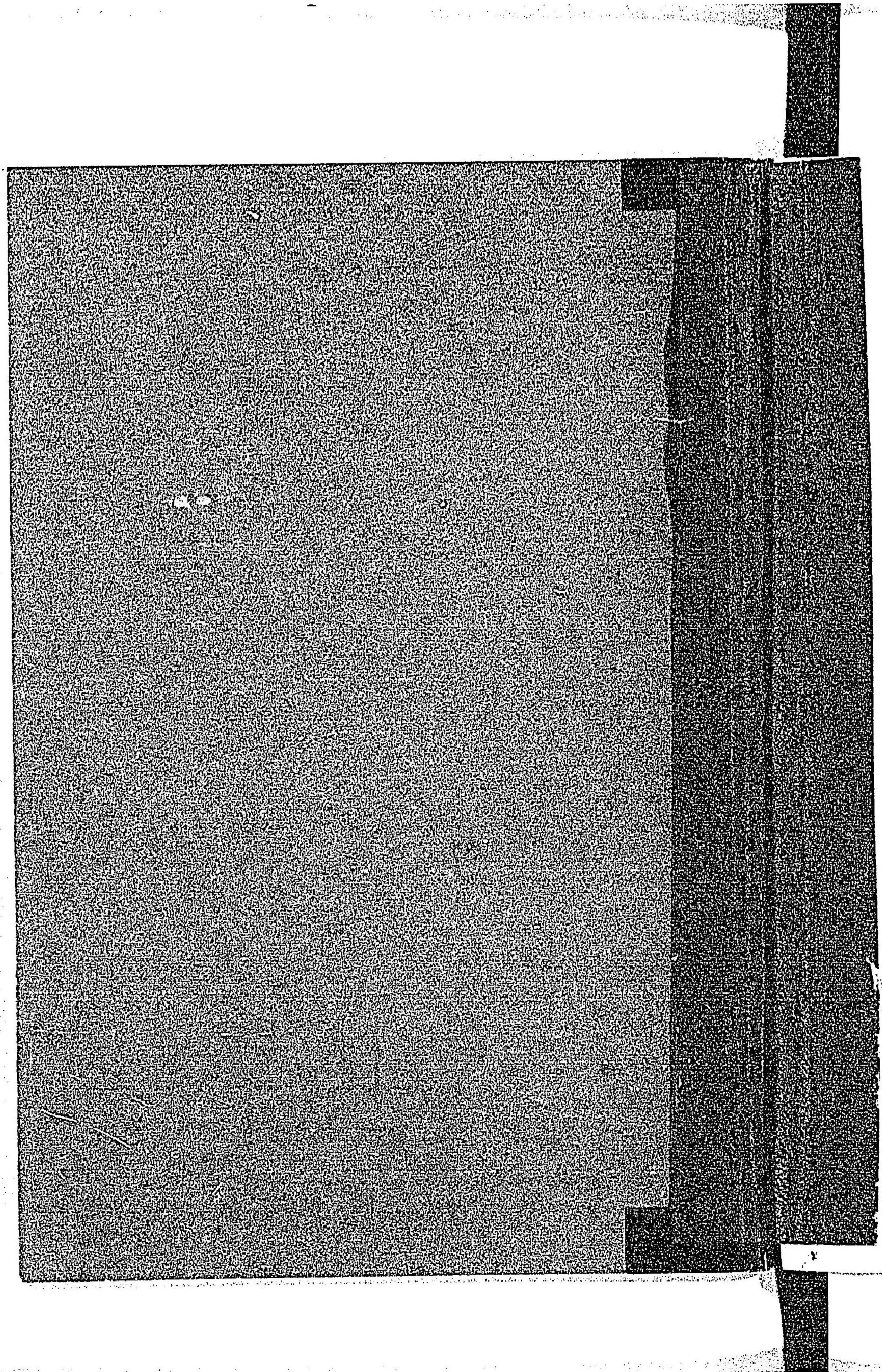
發行者 櫻井傳三

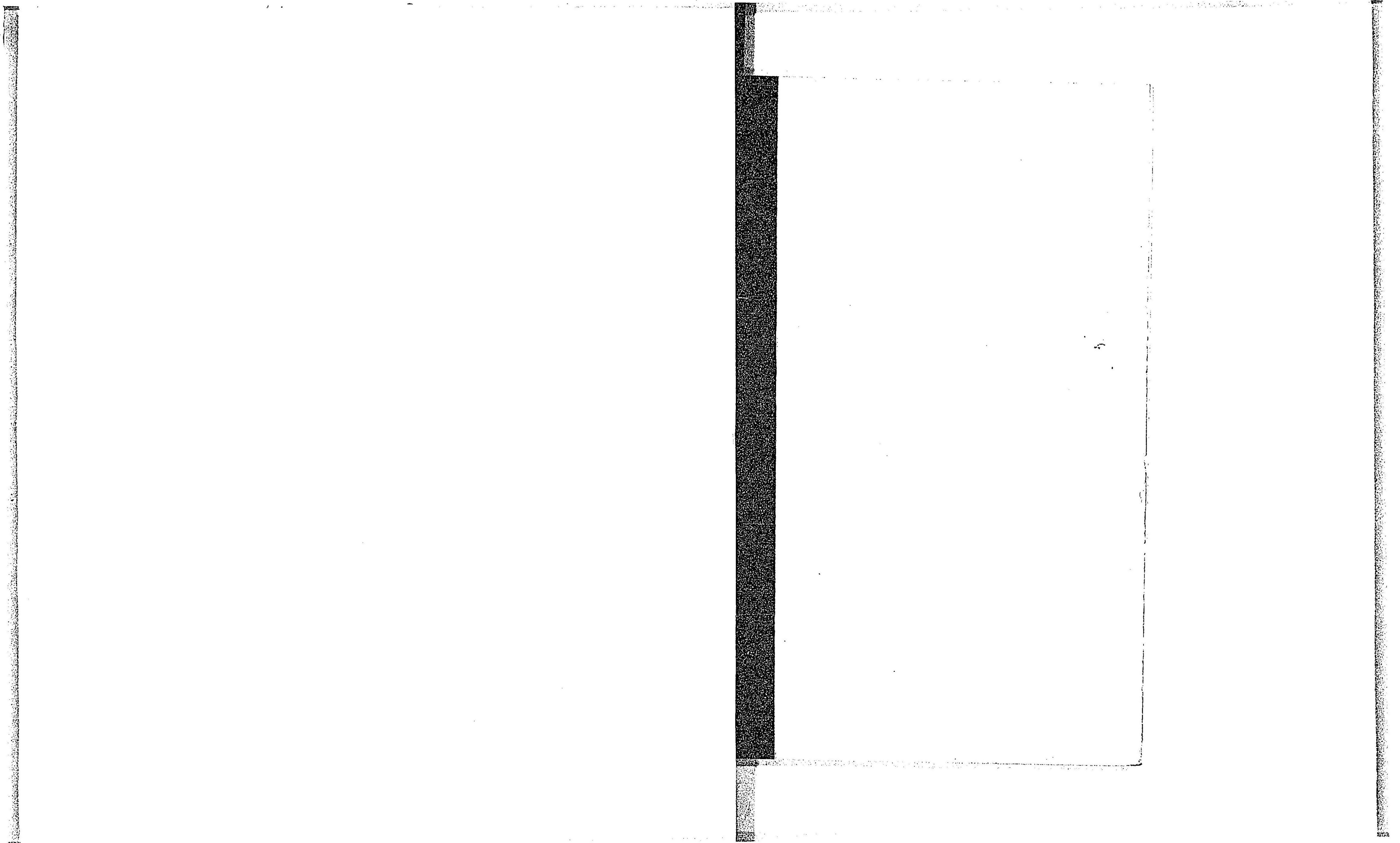
群馬縣前橋市橫山町
第拾一番地

印刷者 黑田矩鎮

群馬縣前橋市北曲輪町
第七十一番地

F-26





天然痘豫防注意

櫻井傳三

国立国会図書館

060718-000-7

特49-616

天然痘予防注意

櫻井 伝三/著

M26

CBM-0590



6